環境活動レポート

株式会社　武田建設

【 目 次 】

表 紙 ・・・ 1

目 次 ・・・ 2

1. 組織の概要 ・・・ 3

1)事業者名及び代表者名 ・・・ 3

2)所在地 ・・・ 3

3)責任者 ・・ 3

4)連絡先 ・・ 3

5)事業規模 ・・ 3

6)推進組織図 ・・ 3

7)対象範囲 ・・ 3

8)対象期間 ・・ 3

2. 環境方針 ・・ 4

. 環境目標 ・・・ 5

4. 環境目標の実績 ・・・ 5

5. 環境活動計画の取組結果とその評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

6.次年度の環境目標と活動計画 ・・・ 7

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 ・・・・・ 8

8. 代表者による全体評価と見直しの結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

9. 環境負荷の推移 ・・・ 9

1．組織の概要

1)事業者名及び代表者名

株式会社　武田建設
代表取締役　武田直隆

2)所在地

本　　社　　〒880－1108　宮崎県東諸県郡国富町大字須志田780番地
資材置場①　〒880－1108　宮崎県東諸県郡国富町大字須志田坂ノ上800－2
資材置場②　〒880－1108　宮崎県東諸県郡国富町大字須志田山木場387
資材置場③　〒880－1109　宮崎県東諸県郡国富町大字須志田平原2-21

3)環境管理責任者

EA-21責任者　：　武田　里緒菜

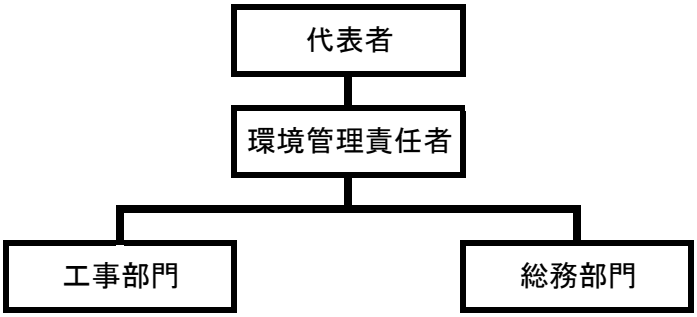
4)連絡先

連絡担当者　：　武田　里緒菜
TEL　：　0985－75－2632　　FAX　：　0985－75－2649
E-mail　：　k.takeda@athena.ocn.ne.jp

5)事業規模

活動規模	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
工事等の件数	件	13	26	25	14	17	13
従業員	人	17	17	16	16	16	16
事務所床面積	m^2	330	330	330	330	330	330
資材置場①	m^2	100	100	100	100	100	100
資材置場②	m^2	110	110	110	110	110	110
資材置場③	m^2	340	340	340	340	340	340

6)推進組織図



7)対象範囲(全組織・全活動)

対象組織・・・本社、資材置場①②③
対象活動・・・建設業(土木一式工事業、舗装工事業、とび・土工工事業)

8)対象期間・・・2023年11月～2024年10月

環境活動レポート 作成日・・・2025年4月9日

環 境 方 針

株式会社 武田建設は、地球環境保全への取組が重要課題であることを認識し、事業活動において自主的・積極的に環境負荷の低減に努め、人と地球に優しい社会地域づくりに貢献します。

＊ 行 動 指 針 ＊

1. 事業活動を通じて環境経営システムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

2. 事業活動から発生する環境負荷を低減する為、以下の項目を重点項目として、優先的に取組みます。
   ① 電力・燃料の消費に伴うCO2排出量の削減
   ② 現場から排出される廃棄物のリサイクル推進
   ③ 水使用料の節減

3. 関連する環境の法規や地域との取決め等を遵守します。

4. 新技術活用や創意工夫で、安全且つ効率的な施工、及び環境に配慮した施工に努めます。

5. 地域とのコミュニケーションを図り、環境保全活動に積極的に参加し社会貢献に努めます。

◇ この方針は、全社員に周知するとともに、一般に公表いたします。

制定；2009年10月14日
改定；2013年 5月13日
改定；2019年10月14日
株式会社 武田建設
代表取締役 武田 直隆

3. 環境目標(第5次)

取組み項目 (目標項目) (単位)		実施区	年度別環境目標			
			基準値 (2015年11月～2020年10月実績平均値)	2021年度 (2021年11月～2022年10月)	2022年度 (2022年11月～2023年10月)	2023年度 (2023年11月～2024年10月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)		全体	95,421	94,467	93,513	92,559
	①電気使用量の削減 (kWh)			基準比1%削減	基準比2%削減	基準比3%削減
		事務所	4,913	4,864	4,815	4,766
	②ガソリン使用量の削減 (L)			基準比1%削減	基準比2%削減	基準比3%削減
		全社	7,604	7,528	7,452	7,376
	③軽油使用量の削減 (L)			基準比1%削減	基準比2%削減	基準比3%削減
		現場	29,441	29,146	28,852	28,557
削減の	①一般廃棄物の削減 (kg)			基準比1%削減	基準比2%削減	基準比3%削減
		全社	131.9	130.6	129.3	127.9
	②建設副産物の再資源化率の向上(%)	現場	再資源化率95%以上			
3. 水資源使用量の削減 (㎥)				基準比1%削減	基準比2%削減	基準比3%削減
		事務所	497.0	492.0	487.1	482.1
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上		全体		環境活動計画の遵守		

※ 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の調整後排出係数0.371を使用しています。

4. 環境目標の実績

2023年11月から2024年10月までの1年間の予実績は以下の通りです。

取組項目		実施区	目標値	実績	達成率	判定
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)		全社	92,559	118,065	78.4%	×
エネルギー	電力使用量の削減 (kWh)	事務所	4,766	5,158	92.4%	△
	ガソリン使用量の削減 (L)	全社	7,376	7,282	101.3%	○
	軽油使用量の削減 (L)	現場	28,557	38,472	74.2%	×
廃棄物2・	一般廃棄物の削減(kg)	全社	127.9	125.6	101.9%	○
	建設副産物の再資源化 (%)	現場	再資源化率 95%以上	100.0% (2,165.6t)	105.3	○
3. 水資源使用量の削減 (m3)		事務所	482.1	248.0	169.8%	○
4. 自らが施工する土木建築物の 環境性能の向上		全社	環境活動計画の遵守	環境活動計画の遵守	—	○

※ 灯油とLPGを含む全社の二酸化炭素総排出量は 119,355.1 kg-CO2です。

【評価】 ○＝100%以上、△＝80%以上、×＝80%未満

5. 環境活動計画の取組結果とその評価

事業活動における環境への負荷を低減するために、以下のような活動を実施しています。
その達成状況や活動の実施状況を3ヶ月毎にEA－21責任者が確認しています。

取組み項目		具体的な活動内容	実施状況
1・二酸化炭素排出量の削減	①電気使用量の削減	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する	不要・不在個所の消灯や、特に夏場のｴｱｺﾝの使用抑制や温度管理を徹底して節電を図ったが、酷暑の夏場に熱中症対策でｴｱｺﾝの使用が増えて電気消費量が増加して、年間の達成率は92.4%の目標未達成となりました。今後も、ｴｱｺﾝの適温化等を徹底して節電を図ります。
		②蛍光灯や反射板など照明器具を定期的に清掃する	
		③ｴｱｺﾝﾌｨﾙﾀｰを定期的に清掃する	
		④空調の適温化【冷房26℃程度、暖房22度程度】を徹底する	
	②化石燃料使用量の削減 ②-1.ｶﾞｿﾘﾝ ②-2.軽油	①エコドライブ（アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかしの防止等）を徹底する	軽油車両をｶﾞｿﾘﾝ車に買換えた事や、河川ﾊﾟﾄﾛｰﾙ委託業務がありましたが、全社員が省エネを意識して活動した結果、101.3%の年間目標達成となりました。
		②現場への相乗りを推進する	
		③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を図る。	
		①重機や建設機械等はできるだけﾌﾙﾊﾟﾜｰ操作をしない（ｱｸｾﾙ7割運動等）	河川災害復旧工事や道路改良工事等で大型重機の稼働が多かった為、軽油消費量が増加しました。ただ、全社員が省エネﾀｲﾌﾟの重機使用や、重機のﾌﾙﾊﾟﾜｰ操作抑制等で節減を図っています。
		②重機類は始業前点検を実施する	
		③創意工夫で工期短縮を図る	
2・廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	①資源物を再生利用できるように分別する（最終処分量の削減を目指す）	年末に事務所内整理で廃棄物が増えたこともありましたが、ﾍﾟｰﾊﾟﾚｽの徹底や裏紙使用、及び徹底した分別等で排出量の削減を図った結果、101.9%の目標達成となりました。
		②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピー、集約コピーに努める	
		③ｺﾋﾟｰﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう	
	②建設副産物の再資源化率向上	①資材発注は残材防止の為、在庫確認を行う。	産廃はｺﾝｸﾘｰﾄ塊、As・Co塊のみであった為、再資源化率は100％となりました。
		②現場発生の残材は持ち帰って分別し、再利用を推進する。	
3. 水資源使用量の削減		①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付る	舗装現場での河川水利用や洗車や機材洗い時の節水を意識して活動し、工事で使用する水を事務所から運搬する事もありましたが、169.8％の目標達成となりました。
		②水道配管からの漏水を定期的に点検する	
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びｻｰﾋﾞｽの改善		①環境配慮型の建設機械を使用する（排ガス対策型、低騒音型、エコ操作型等）	建設機械は排ガス対策型、低騒音型、エコ操作型等を使用しています。又、粉塵・振動・騒音・異臭対策を講じて施工するように心がけています。
		②自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する	
		③創意工夫で工期短縮に取組む	

6. 次年度の環境目標と活動計画

取組み項目		2024年度 目標	具体的な活動内容
二酸化炭素排出量		**92,254 kg-CO2**	・省エネ・省資源活動の実施
1・二酸化炭素排出量の削減	①電気使用量の削減	4,560 kWh	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する
			②蛍光灯や反射板など照明器具を定期的に清掃する
			③ｴｱｺﾝﾌｨﾙﾀｰを定期的に清掃する
			④空調の適温化〔冷房26℃程度、暖房22度程度〕を徹底する
	②ガソリン使用量の削減	7,749 L	①エコドライブ（アイドリングストップ、急発進・急加速及び空ぶかしの防止等）を徹底する
			②現場への相乗りを推進する
			③段取り良い前準備で忘れ物などをなくし、折り返し運行の撲滅を図る。
	③軽油使用量の削減	27,949 L	①重機や建設機械等はできるだけﾌﾙﾊﾟﾜｰ操作をしない（ｱｸｾﾙ7割運動等）
			②建設機械等はこまめにｴﾝｼﾞﾝｽﾄｯﾌﾟをする。
			③創意工夫で工期短縮を図る
2・廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	110.0 kg	①資源物を再生利用できるように分別する（最終処分量の削減を目指す）
			②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピー、集約コピーに努める
			③ｺﾋﾟｰﾄﾅｰｶｰﾄﾘｯｼﾞや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう
	②建設副産物の適正処理	再資源化率 95%以上	①資材発注は残材防止の為、在庫確認を行う。
			②現場発生の残材は持ち帰って分別し、再利用を推進する。
3. 水使用量の削減		384.4 m^3	①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付る
			②水道配管からの漏水を定期的に点検する
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善（環境配慮型施工の推進）		環境活動計画の順守	①環境配慮型の建設機械を使用する（排ガス対策型、低騒音型、エコ操作型等）
			②自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する
			③創意工夫で工期短縮に取組む

※ 目標を達成するための活動は色々なやり方を実施してきましたが、今現在のやり方が効果的で効率的であるとの判断から、継続します。但し、他に良い方法などがあった場合は随時に取入れるなど、試行錯誤しながら継続的な改善に繋げます。

※ 過去4年間の実績平均値を新基準値として3ヶ年で基準値の1．5%の二酸化炭素排出量を削減する第6次③ヶ年中期目標を設定しました。

7. 環境関連法規等の遵守状況及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無

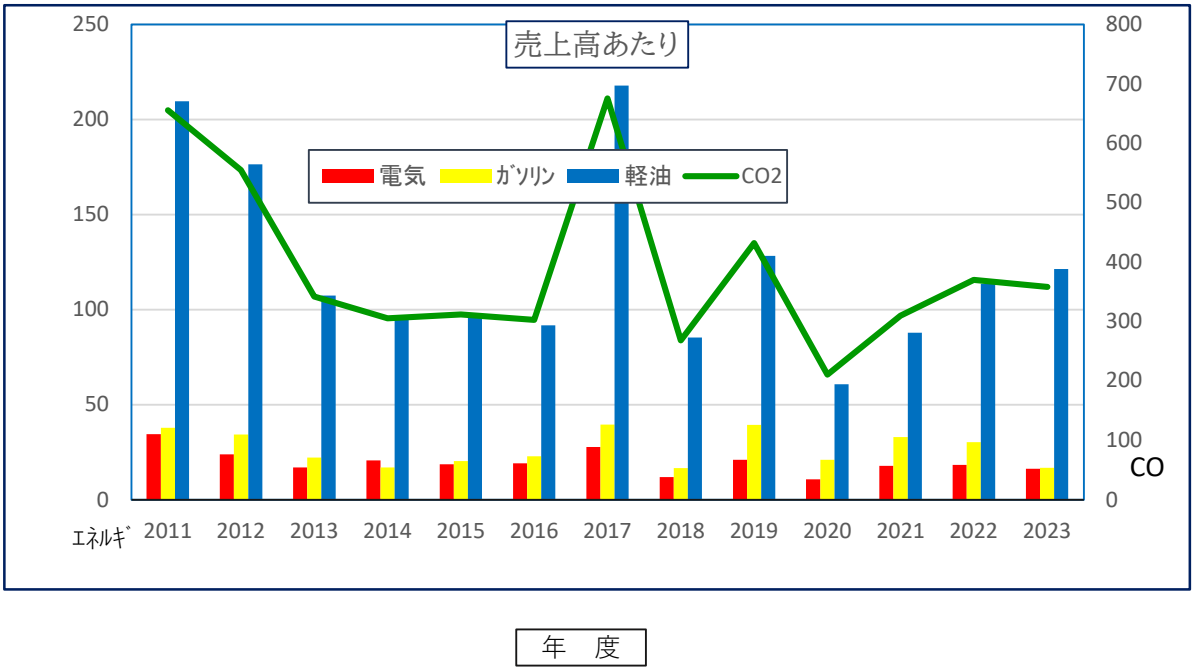
当社に関連する主な環境関連法規制は、インターネットや協会等で常に確認しています。
なお、関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。
また、関係当局からの指摘、及び地域住民からのクレームや訴訟もありませんでした。
現場での遵守状況は、安全パトロール中や職員会議・安全会議時などで常に確認しています。
当社の事業に関係する主な環境関連法規と遵守状況は以下の通りです。

法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認（発行後B2,D票90日E票180日以内）A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
建設ﾘｻｲｸﾙ法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	遵守
ﾌﾛﾝ排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用ｴｱｺﾝの簡易点検実施	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出　・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出　・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事なし
浄化槽法	・年1回の清掃と年3回の保守点検の実施　・年1回の法定点検の実施	遵守

8. 代表者による全体の評価と見直し結果

評価項目	代表者による評価と指示
①環境経営方針につい	・2019年10月14日改訂の環境方針を継続する
②推進体制について	・2020年9月1日に改定した組織を継続する
③環境経営目標達成状況と環境経営計画実施状況について	今年度は河川災害復旧工事や道路改良工事等で大型重機等の稼働が多かった為、軽油消費量が増加して会社の二酸化炭素排出量が78．4%の目標未達成となりましたが、環境活動計画で決めた事は全員が徹底して実施している為、特に問題とは思われません。又、ガソリンは軽油車両をガソリン車に買換えたが、全社員が相乗りやエコドライブを徹底して頂いたこともあって101.3%の目標達成となった。電気は、酷暑の今夏はエアコンの稼働が増えた事等でやや目標をオーバーしたが、問題となるような使用は見られない。今後も工事内容で目標達成状況は変わりますが、削減の為の活動は継続して実施して下さい。
④環境関連法規制の遵守状況について	環境関連法規制に限らず、コンプライアンスは最重要事項として取り組む事。又、常に最新の法規制等の情報を把握する事。
⑤外部からの環境に関する苦情や要望などについて	工事現場の住民へ工事期間や通行止め等を細かく説明して、協力をお願いする事。又、万一苦情などが発生したら、当該責任者の速やかな対応と事実の把握、及び内容によっては再発防止を図る事。
⑥その他、全般について	特になし

9. 環境負荷の推移(売上高当り)



当社の事業活動で発生する全CO2のうち、軽油消費による割合が約80%を占める為、
CO2の発生を抑制するには、いかに軽油消費量を削減するかに掛かっています。
その軽油消費量は直営工事の割合や重機使用の多寡によって大きく左右されますが、
特に重機等のアイドリングストップやフルアクセルの抑制、HV型重機使用等々で
軽油消費量の節減を図っています。
その結果、2023年度は軽油消費量が増加下にも関わらず、二酸化炭素排出量は
減少しました。